

第3回審議会での意見を受けて、基本方針3について、次のとおり修正します。

- ・①市民一人ひとりの意識改革として、購入時と廃棄時に分けて記述しています。
- ・エシカル消費について、意識改革や行動変容を促す一つの事例として、環境だけでなく人や社会、地域への配慮などにも繋がることを追記しています。

基本方針3

ライフスタイルの見直しと協働体制の確立

① 市民一人ひとりの意識改革

大量生産、大量消費型の社会経済活動は、人々に豊かさと利便性をもたらす反面、天然資源の枯渇や地球温暖化などの環境問題を引き起こす結果となりました。エシカル消費やサステナブルファッション習慣など新しい考え方などを提示することで、購入や消費の際に、市民一人ひとりが自ら考え行動するよう進めていきます。また、使い終わった後はリサイクルだけでなくリユースにも意識を向けるよう進めていきます。

【エシカル消費とは】

エシカル（倫理的・道徳的）消費とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のことです。私たち一人ひとりが、社会的な課題に気づき、日々のお買い物を通して、その課題の解決のために、自分は何ができるのかを考えてみることで、これがエシカル消費の第一歩であり、SDGsのゴール12「つくる責任 つかう責任」に関連する取組です。

エシカル消費には様々な側面があり、「人・社会への配慮」「地域への配慮」「環境への配慮」などにつながります。身の周りにある食品や製品には、原材料が作られ、加工され、手元に届くまでにたくさんの人が関わっています。その中には、発展途上国で貧困に苦しむ人や安い工賃で働く障がい者もいます。このような実態を考え、人や社会に配慮された商品を選んで購入することで、より多くの人が持続可能な生活を送れるようになります。また、地元の食材を選ぶことや地元のお店で商品を買う地産地消は地元の応援やフードマイレージ（食料の輸送距離）の短縮につながります。しかしながら、現実には食料の多くを輸入に頼っているという側面もあります。生産や輸送に多くのエネルギーを使いながら、食べ残しなどで毎日お茶碗1杯分の食品を捨てている「食品ロス」が発生していることにも目を向けてみましょう。

大量生産・大量消費・大量廃棄の暮らしによって環境問題が深刻化しています。商品が届くまでの背景や廃棄された後の影響を考えてモノやサービスを選択し、一人ひとりが思いやりを持った消費行動を心掛けることで未来の環境につながります。

参考：消費者庁 エシカル消費特設サイト

【サステナブルファッション習慣のすすめ】

サステナブルファッションに向けた消費者の取組の第一歩は、ごくごく簡単で身近な行動からすぐに踏み出せるものです。プラスチック削減がマイ・エコバッグを持つことから始めることができたように、です。例えば、衣服を購入する前に、3年後に自分がその服を着ている姿をイメージできるか、長く着るつもりで購入するものなのか、もう一度よく考えてみる、そんなことから始めることができます。新しい服を買うのをやめてボタンを付け替えて服の印象を変えてみる、なんてこともできます。

すぐに始められるサステナブルファッションですが、上手に自分の個性を出して、極めて、習慣化すれば、新しく、クールな（おしゃれな）自己表現も可能なはずです。必ずしも高価なものでもなくても構わないのです。オーガニックにこだわる、リサイクル素材を使った服しか着ないというこだわりなども立派な自己PRです。

出典：消費者庁 エシカル消費特設サイト

② 市民・事業者・行政による協働

市民・事業者・行政それぞれが担う役割や責任を考え、行動に繋げるよう促していきます。また、それぞれが協力することで持続可能な発展を目指します。